



2022年11月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年7月5日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社エスプール
 コード番号 2471 URL <https://www.spool.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 浦上 壮平
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部担当 (氏名) 佐藤 英朗 TEL 03-6859-5599
 四半期報告書提出予定日 2022年7月12日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2022年11月期第2四半期の連結業績（2021年12月1日～2022年5月31日）

（1）連結経営成績（累計）（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年11月期第2四半期	13,665	17.4	1,565	32.1	1,568	31.0	1,030	32.1
2021年11月期第2四半期	11,641	19.3	1,184	19.5	1,197	21.1	780	13.4

（注）包括利益 2022年11月期第2四半期 1,065百万円（36.5%） 2021年11月期第2四半期 780百万円（13.4%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年11月期第2四半期	13.05	—
2021年11月期第2四半期	9.88	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年11月期第2四半期	16,254	6,661	41.0	84.43
2021年11月期	15,320	6,106	39.7	76.94

（参考）自己資本 2022年11月期第2四半期 6,670百万円 2021年11月期 6,078百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年11月期	—	0.00	—	6.00	6.00
2022年11月期	—	0.00	—	—	—
2022年11月期（予想）	—	—	—	8.00	8.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2022年11月期の連結業績予想（2021年12月1日～2022年11月30日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	28,770	15.7	3,200	19.9	3,176	18.8	2,133	13.4	27.01

（注）1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2. 「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年11月期の連結業績予想に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(注) 詳細は、添付資料の「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年11月期2Q	79,007,500株	2021年11月期	79,007,500株
② 期末自己株式数	2022年11月期2Q	3,855株	2021年11月期	3,855株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2022年11月期2Q	79,003,645株	2021年11月期2Q	79,003,645株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料の「1. 当四半期決算に関する定性的情報」をご覧ください。

(決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法)

当社は、2022年7月5日(火)にアナリスト向け説明会を開催する予定です。

その模様及び説明内容については、当日使用する決算説明資料とともに、開催後速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(会計方針の変更)	10
(セグメント情報)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間においては、新型コロナウイルス感染症の新規感染者数の減少が進む中、行動制限の緩和などにより景気の緩やかな持ち直しの動きが見られました。しかしながら、ロシアによるウクライナ侵攻など国際情勢の緊迫化に加え、急激な円安の進行、原材料価格やエネルギー価格の高騰などが重なり、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

そのような中、当社グループは、領域の異なる事業を複数展開するポートフォリオ経営を推進したことにより、不安定な外部環境の影響を最小限に抑え、売上・利益ともに第2四半期連結累計期間における過去最高を更新いたしました。人材アウトソーシングサービスについては、販売支援業務の回復は遅れているものの、コールセンター業務のスポット案件の一部が延長となったことで、売上は堅調に推移しました。障がい者雇用支援サービスにおいては、営業活動が好調を維持しており、新規・既存の顧客ともに受注が大きく積み上がりました。また、農園開設が計画通り進んだことで納品も順調に進み、大幅な増収増益を達成することができました。その他、環境経営支援サービス、広域行政BPOサービスなどの新規事業も好調な立ち上がりを見せており、グループ業績の向上に大きく寄与しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は13,665百万円（前年同四半期比17.4%増）、営業利益は1,565百万円（前年同四半期比32.1%増）、経常利益は1,568百万円（前年同四半期比31.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,030百万円（前年同四半期比32.1%増）となりました。

なお、当社グループは、社会的価値と経済的な価値の両立を実現することを中期的なビジョンとし、①「既存事業の深堀りによるオーガニック成長の継続」、②「新たな事業領域における成長機会の獲得」、③「ESGを軸とした経営基盤の強化」の3点を重点戦略として定めております。

2022年11月期第2四半期連結累計期間 連結業績

(単位：百万円)	2021年11月期 第2四半期	2022年11月期 第2四半期	増減率
売上高	11,641	13,665	17.4%
営業利益	1,184	1,565	32.1%
経常利益	1,197	1,568	31.0%
親会社株主に帰属する四 半期純利益	780	1,030	32.1%

当第2四半期連結累計期間のセグメント経営成績（セグメント間内部取引消去前）は以下のとおりであります。

①ビジネスソリューション事業

[事業概要]

ビジネスソリューション事業では、シニアや障がい者など潜在労働力の活用を支援するサービスや、企業の業務の一部を受託するアウトソーシングサービスを提供しています。前者においては、株式会社エスプールプラスが、障がい者の就労に適した農園を企業に貸し出し、主に知的障がい者の採用・教育から定着化までを支援するサービスを行っています。株式会社エスプールでは、様々な経験やノウハウを有するシニアを企業の経営課題や業務課題の解決に役立てるプロフェッショナル人材サービスを提供しています。

後者のアウトソーシングサービスでは、株式会社エスプールロジスティクスが、通販商品の発送を代行する物流サービスを行っています。株式会社エスプールリンクでは、アルバイトやパートの求人応募の受付を代行する採用支援サービスを提供しており、株式会社エスプールセールスサポートでは、対面型の会員獲得業務や販売促進業務を行っています。ブルードットグリーン株式会社は、CO₂の排出量算出やカーボンオフセット仲介など環境経営の支援に関するサービスを提供しています。また、2021年12月に新設した株式会社エスプールグローバルでは、隣接する複数の自治体の行政業務を一括で受託する広域行政BPOサービスを行っています。

[当第2四半期連結累計期間の経営成績]

障がい者雇用支援サービスにおいては、ESG経営の浸透にともなう企業の障がい者雇用に対する意識の高まりが、好調な営業活動の後押しとなりました。農園は2施設の開設となり、累計では32施設まで拡大しました。また、初進出となった神奈川県横浜市の屋内型農園に関しては、引き合いが強く開設1カ月でほぼ完売となりました。その結果、第2四半期は過去2番目の設備販売数となり、大幅な増収増益を達成しました。ロジスティクスアウトソーシングサービスについては、新規顧客の獲得は堅調に推移したものの、既存顧客の出荷が伸び悩んだことで売上は若干の増加にとどまりました。環境経営支援サービスにおいては、TCFD提言に沿った情報開示の支援業務が大きく伸び、売上・利益ともに大幅増となりました。広域行政BPOサービスについては、第2四半期で新たに3センターを開設し、累計では8拠点となりました。新センターに関しては、スポット業務を上手に取り込み、早期の収益化につなげることができました。採用支援サービスにおいては、まん延防止等重点措置の実施の影響により第1四半期こそ苦戦しましたが、行動制限の緩和とともに飲食業の求人が伸びており回復が鮮明となってきました。その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は4,681百万円（前年同四半期比35.4%増）、営業利益は1,328百万円（前年同四半期比50.8%増）となりました。

②人材ソリューション事業

[事業概要]

人材ソリューション事業は、人材派遣サービスを主力とする株式会社エスプールヒューマンソリューションズが提供するサービスで、コールセンター等のオフィスサポート業務とスマートフォンや家電製品等の店頭販売支援業務に関する人材サービスを展開しています。サービスの特徴は、フィールドコンサルタント（FC）と呼ばれる同社の従業員と派遣スタッフをチームで派遣する「グループ型派遣」の形態を採用している点になります。派遣先に常駐するFCが派遣スタッフを現場で手厚くフォローすることで、未経験者を短期間で育成できるだけでなく定着率の向上にもつながり、顧客満足度の向上とシェア拡大につながっています。また、最近では、受託業務の受注にも注力しており、自社コールセンターを2施設運営しています。

[当第2四半期連結累計期間の経営成績]

主力のコールセンター業務については、主要顧客を中心にグループ型派遣が堅調に推移しました。新型コロナウイルス感染症対策に関連したスポット業務が縮小傾向にあるものの、当第2四半期連結累計期間においては、案件の一部が延長となり売上増に寄与しました。一方、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた販売支援業務については、一部の業務において再開の兆しが見えてきたものの、通信キャリア関連の人材ニーズが弱く、本格的な需要回復には至りませんでした。一部の業務では再開の動きがあり、底打ちの兆しが見えてきました。地域別では、コールセンター業務が好調に推移した東京・横浜地区や沖縄地区が高い伸びを示しました。その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は9,042百万円（前年同四半期比10.2%増）、営業利益は997百万円（前年同四半期比7.1%増）となりました。

2022年11月期第2四半期連結累計期間 セグメント別業績

売上高 (単位: 百万円)	2021年11月期 第2四半期	2022年11月期 第2四半期	増減率
報告セグメント	11,664	13,723	17.7%
ビジネスソリューション事業	3,458	4,681	35.4%
人材ソリューション事業	8,205	9,042	10.2%
調整額	△22	△58	－%
合計	11,641	13,665	17.4%

営業利益 (単位: 百万円)	2021年11月期 第2四半期	2022年11月期 第2四半期	増減率
報告セグメント	1,812	2,326	28.4%
ビジネスソリューション事業	880	1,328	50.8%
人材ソリューション事業	931	997	7.1%
調整額	△628	△761	－%
合計	1,184	1,565	32.1%

(2) 財政状態に関する説明

①資産

当第2四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末から301百万円減少し、7,416百万円となりました。人材ソリューション事業を中心として売上が増加しておりますが、売上債権の回収が進んだ結果、受取手形及び売掛金が316百万円減少しております。

当第2四半期連結会計期間末の固定資産は、前連結会計年度末から1,235百万円増加し、8,838百万円となりました。障がい者雇用支援サービス拡大のため、株式会社エスプールプラスにて、新規農園の建設や既存農園の増設をしており、有形固定資産が1,104百万円増加しております。また、業務拡大に備えたグループ会社拠点の移転開設等に伴う差入保証金を中心とする、その他が156百万円増加しております。

②負債

当第2四半期連結会計期間末の流動負債は、前連結会計年度末から446百万円増加し、7,414百万円となりました。納税や投資活動による支出等に備えて短期借入金を474百万円借り増ししております。

当第2四半期連結会計期間末の固定負債は、前連結会計年度末から68百万円減少し、2,177百万円となりました。長期借入金の返済により114百万円減少し、農園の新規建設等により資産除去債務が82百万円増加しております。

③純資産

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益により利益剰余金が1,030百万円、ブルードットグリーン株式会社の株式を追加取得したことにより資本剰余金が24百万円増加し、一方、第22期末末配当により474百万円減少し、6,661百万円となりました。

④キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間の現金及び現金同等物は前連結会計年度末から4百万円減少し、3,934百万円となりました。各活動によるキャッシュ・フローの状況と要因は以下のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同四半期比1,126百万円増加の1,562百万円の収入（前年同四半期は435百万円の収入）となりました。これは、税金等調整前四半期純利益が前年同四半期と比較して379百万円増加し1,567百万円であったのに加え、主に減価償却費が391百万円、売上債権の減少が316百万円、及び法人税等の支払額が320百万円あったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、前年同四半期比405百万円増加の1,417百万円の支出（前年同四半期は1,012百万円の支出）となりました。これは、主に株式会社エスプールプラスの新農園建設等による有形固定資産の取得による支出1,271百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、149百万円の支出（前年同四半期は199百万円の収入）となりました。収入及び支出の主な内訳は、短期借入金の増加474百万円、長期借入金の返済による支出114百万円、配当金の支払額472百万円、及び連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出36百万円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年1月13日に公表いたしました2022年11月期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年11月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,938	3,934
受取手形及び売掛金	3,411	3,094
商品	170	183
その他	204	208
貸倒引当金	△6	△4
流動資産合計	7,717	7,416
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	6,106	6,949
その他(純額)	532	794
有形固定資産合計	6,638	7,743
無形固定資産	71	65
投資その他の資産		
繰延税金資産	60	41
その他	844	1,001
貸倒引当金	△12	△12
投資その他の資産合計	893	1,029
固定資産合計	7,603	8,838
資産合計	15,320	16,254
負債の部		
流動負債		
買掛金	218	212
短期借入金	3,450	3,924
1年内返済予定の長期借入金	228	228
未払法人税等	377	561
未払費用	1,564	1,387
賞与引当金	93	170
役員賞与引当金	40	—
その他	995	930
流動負債合計	6,968	7,414
固定負債		
長期借入金	1,188	1,073
繰延税金負債	118	98
資産除去債務	893	975
その他	45	29
固定負債合計	2,245	2,177
負債合計	9,214	9,592
純資産の部		
株主資本		
資本金	372	372
資本剰余金	222	246
利益剰余金	5,484	6,041
自己株式	△0	△0
株主資本合計	6,078	6,659
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	—	11
為替換算調整勘定	0	△0
その他の包括利益累計額合計	0	10
非支配株主持分	27	△8
純資産合計	6,106	6,661
負債純資産合計	15,320	16,254

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年12月1日 至 2021年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)
売上高	11,641	13,665
売上原価	8,279	9,265
売上総利益	3,361	4,400
販売費及び一般管理費	2,177	2,835
営業利益	1,184	1,565
営業外収益		
受取利息	0	0
助成金収入	23	19
その他	2	0
営業外収益合計	26	20
営業外費用		
支払利息	11	15
その他	0	1
営業外費用合計	12	16
経常利益	1,197	1,568
特別利益		
固定資産売却益	0	0
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産除却損	9	1
特別損失合計	9	1
税金等調整前四半期純利益	1,188	1,567
法人税、住民税及び事業税	402	517
法人税等調整額	4	△5
法人税等合計	407	512
四半期純利益	780	1,054
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	23
親会社株主に帰属する四半期純利益	780	1,030

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年12月1日 至 2021年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)
四半期純利益	780	1,054
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	—	11
為替換算調整勘定	0	△0
その他の包括利益合計	0	10
四半期包括利益	780	1,065
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	780	1,041
非支配株主に係る四半期包括利益	0	23

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年12月1日 至 2021年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,188	1,567
減価償却費	300	391
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	3	△2
賞与引当金の増減額 (△は減少)	38	76
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△40	△40
受取利息	△0	△0
支払利息	11	15
固定資産除却損	9	1
固定資産売却損益 (△は益)	△0	△0
売上債権の増減額 (△は増加)	△155	316
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△112	△13
仕入債務の増減額 (△は減少)	△16	△6
未払費用の増減額 (△は減少)	△44	△177
その他	△378	△231
小計	804	1,898
利息及び配当金の受取額	0	0
利息の支払額	△12	△15
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△357	△320
営業活動によるキャッシュ・フロー	435	1,562
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△937	△1,271
無形固定資産の取得による支出	△22	△6
敷金及び保証金の差入による支出	△55	△154
敷金及び保証金の回収による収入	0	12
その他	1	1
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,012	△1,417
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	500	474
長期借入金の返済による支出	△42	△114
配当金の支払額	△257	△472
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	—	△36
財務活動によるキャッシュ・フロー	199	△149
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△377	△4
現金及び現金同等物の期首残高	2,514	3,938
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,137	3,934

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

当社グループにおける主な収益は、顧客との財及び役務提供契約から生じる収益であり、当該契約における一定の期間にわたる履行義務の充足につれて収益を認識することとしておりますが、従来の取り扱いから変更される事項はないため、収益認識に関する会計基準等の適用による四半期連結財務諸表への影響はありません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2020年12月1日 至 2021年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ビジネスソリューション事業	人材ソリューション事業	計		
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	3,443	8,198	11,641	—	11,641
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	15	7	22	△22	—
計	3,458	8,205	11,664	△22	11,641
セグメント利益	880	931	1,812	△628	1,184

(注) 1. セグメント利益の調整額△628百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△628百万円であり、全社費用は、当社の管理部門に係わる費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ビジネスソリューション事業	人材ソリューション事業	計		
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	4,658	9,006	13,665	—	13,665
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	23	35	58	△58	—
計	4,681	9,042	13,723	△58	13,665
セグメント利益	1,328	997	2,326	△761	1,565

(注) 1. セグメント利益の調整額△761百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△761百万円及び調整額0百万円であります。全社費用は、当社の管理部門に係わる費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。